

5月号



いずみこども園
ホームページ
QRコード



令和6年4月30日
千代田区立いずみこども園
園長 穴原江美

【教育目標】 元気な子ども やさしい子ども ☆考える子ども



「乳幼児期に大切にしたいこと」

いずみこども園 副園長 村田 靖孝

新年度が始まり1か月。「風薫る5月」となりました。新入園の子どもたち、そしてひとつ大きなクラスに進級した子どもたちも、新しい保育室や保育者に慣れ、笑顔がたくさん見られるようになりました。新たな環境に慣れるのに、子どもたち一人一人が様々な思いを抱きながら過ごしてきたことを感じます。保護者の皆様も、新しい学級担任のことや保護者同士の関係作り、初めての園生活に、我が子がどのように過ごしているか心配されたことではないでしょうか。子どもたちにとっても保護者の皆様にとっても、そして我々教職員にとっても、頑張ってきた1か月だと思います。

ゴールデンウィークが始まりました。連休明けは4月当初の姿に戻る子どもや、今までなんともなかったのが急に不安になる子どももいるかと思えます。保護者の皆様は、ゆったりと構えて「楽しんでいらっしやい」と送り出していただけたらと思います。一人一人のペースで安心して元気に登園できるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

さて先日、ある新聞の記事で、子どもたちの読解力が低下しているとの記事に目が留まりました。読解力と学力は比例しているため未来が危ぶまれます。読解力をつけるには、たくさん本を読めば良いのでしょうか。本が好きな子どもが必ずしも読解力があるとは限らないそうです。読んだ後に書いた人が何を訴えたいのかを考えたり、自分の考えをまとめたりすることで、読解力が高まるという人もいます。重要なことは生活の実体験、興味や関心が豊富であると、文章で表現された場面をイメージしやすく、読み解く力につながるようです。乳幼児期の体験的な学びが大切なことを、記事を通して確信できました。

こども園では、子どもが主体的に身近なものや人に関わり心を動かす中で、様々なことを感じたり考えたり表現したりするようになってほしいとの思いから『考えるこども』に光を当てています。様々な遊びや生活の中で、不思議に思う、試す、判断する、味わう、自分の言葉で伝えるなどの体験を通して、自分で考えたことを思いっきりできる「遊び」が乳幼児期の大切な学びになります。子どもたちが「遊び」を十分に楽しめるように環境を考え工夫し、そして子どもたち一人一人の感性に答え、成長をしっかりと捉えられるよう、教職員自らも感性を磨いていきます。子どもにとって遊びが生きる喜びとなり、学びや発達の源泉となるように取り組み、未来を生き抜く「やりたいことを実現する力」となる子どもたちの土台、根っこを育てていきます。

将来AI化が進んだ社会になったとしても、知恵を使って困難を乗り越えられる人になってほしいと心から思います。今後も子どもたちが、わくわくしながら主体的に体験を積み重ねる保育・教育を充実させて参ります。大好きな遊び、大好きな場所、大好きな友達や保育者をいっぱい見付けて楽しく過ごせますように…。